



< 豊作満載 >



Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

ならやまプロジェクト	1	病虫害講座	8
Monthly Repo ならやま	2	字遊字感	9
里山の今（虫・花だより）	3	Galleryならやま	10
里山の今（里山・エコ）	4	行事案内	11
初出・記念植樹レポ	5	仲間入りしました	12
三輪山登拝レポ	6	幹事会報告・編集後記	13
私のふるさと	7		

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

コロナウィルスはほとんどがオミクロン株に置き換わり、全国的に感染が拡大、まん延予防措置が次々と出されている。ワクチン効果は重症化リスクをかなり軽減してくれるようでもあるが、感染者数の多さは医療を圧迫することになる。ならやまの活動も、参加者に少しでも危機感を持っていただくために、当分の間、お昼の賄いを休止することになった。これまでのコロナウィルスとは何となく違うようでもあり、危機感もさまざまである。オミクロン株は無症状も多く、参加者の中に感染者がいてもおかしくない。けれども、当会の活動は屋外でもあり、必要以上に恐れることなく、マスク、三密回避などの感染対策を再徹底することで継続していくこととしている。

ならやまでは「古都に広がる里山の彩り」プランの実現に向けてカエデやカツラの植樹も終え、水はけ対策が進められている。また、2月19日にはシイタケイベントが予定されており、シイタケ菌植菌やコナラ植樹、遊びの森の準備に忙しい。BC前の階段はほぼ完成。東池の補修を含む水路整備も進む。

1月18日、大神神社に参拝、三輪山登拝にて、活動の安全を祈願した。コロナ禍が一日もはやく収束し思い悩むことなく活動できるようになることを祈るばかりである。

2月の活動特記事項

協働活動：2月3日 アダプトプログラム、コナラ植樹用穴掘り

イベント：2月19日 シイタケイベント

2月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	シイタケイベント準備（楢木づくり、穴掘り、植菌準備）、薪割り、 里山林内整備 ユート：アカマツの森 間伐、剪定
エコファーム	春野菜準備、ハウス修理、エンドウ支柱立て・ネット張り、 葉物野菜跡へのチップ入れ、ダイコン・カブ跡地整備、ジャガイモ畑準備
景観	彩の森竹林整備 ビオ：東池改修、西池・水路改修 花：花壇草取り・寒肥やり
パトロール	新1～3コースパトロール、観察路整備（丸太階段補修その他） メンテ：BC掲示板改修
果樹	キウイ棚作り・排水路整備、冬季剪定、寒肥、B地区への車進入路整備

活動日：毎週木曜日 9:00～15:00

前日水曜日の19時現在の気象庁予報（NHKTV 奈良 19時前放送）の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌金曜日、木曜日にも同予報であれば中止



Monthly Repo. **ならやま**

富井 忠雄

12月23日(木) 活動 晴 82名+3名

今年最後の活動で、天気も良くて、久しぶりに82名が参加。里山G中心で作った門松と、池山さん作成のしめ縄などでベースキャンプの新春準備、あわせて新春の七草粥、10年継続植樹の準備など行い、活動は午前中で終了。ほのぼのの基金では野菜などが年末大振る舞いとして大量販売された。午後からは里山グループが用意してくれた干支(虎)作り、小門松造りを希望者が楽しんだ。

シニア自然大学から3名が来訪、緑綬褒章受章を中心に取材があった。

里山Gは門松、干支などの新春植樹準備、エコGは里芋の種保存、ネギ、玉葱の施肥、大根、人参などの野菜収穫、景観Gは佐保自然の森竹林整備、花班は花壇の草取り、ビオ班は、水路の掃除などを実施。パトロールGは2コースパトロール、観察路案内表示取付け、BC階段工事など、果樹Gは、梅の剪定、実りの森清掃、排水溝作りを行った。

1月6日(木) 雪、曇り 67名

新春初出から雪が降って寒い一日。朝礼後、10年継続記念植樹(6名)を皆で祝う。餅つきはなく少し淋しいが、昼の七草粥は体の芯から温めてくれ、ありがたく美味しくいただいた。里山Gは楢木の作成、薪割り、エコGは畑のチップ入れ、冬野菜の収穫などを実施。景観Gは実りの森竹林整備。花班は花壇の草取りなど、ビオ班は里地とビオエリアの水路掃除、パト



ロールGは自然の森観察路点検、BC階段工事、四季の丘の整備、果

樹GはBCの梅の剪定、実りの森の掃除などを行った。

1月13日(木) 曇り 66名+1名(実習生)

とても寒い。オミクロン株によるコロナ感染拡大に対して、マスク、三密回避などの徹底と、新春講演会&懇親会中止の話があった。

里山Gは門松の撤去、楢木づくり、薪割りなど、エコGは、牛蒡畑の整備とチップ入れ、エンドウ支柱竹採集、野菜の収穫などを実施。景観Gは実りの森竹林整備。花班は草取りと寒肥やり。ビオ班は東池水抜き、ビオエリアの北西側道路の整備、パトロールGは、第1コースパトロール、丸太階段補修、BC階段工事、果樹GはBCの梅の剪定、実りの森雑木処理を行った。

1月20日(木) 曇り晴 67名

今日は大寒、やっぱり寒い。コロナ感染拡大に対して再々の注意喚起があり、対策の一つとして来週から当分の間、昼の賄いがお休みとなった。佐保台小学校の課外学習コーディネイターの方々が見学に来られた。



「古都に広がる里山の彩り」プランに従って紅葉広場の木道設置

を行った。里山Gは楢木の制作、薪割り、クラブ・ユートピアはアカマツの整備、エコGはチップ入れ、東池の泥を西畑に移動、野菜収穫などを実施。景観Gはエントランス広場周辺竹林整備、ビオ班は西池奥の木道整備、東池周辺整備、花班はアジサイ園草取り、ジャーマンアイリスの整備、パトロールGは、2コースパトロール、丸太階段補修、BC階段工事など、果樹Gはキウイの排水溝整備など行った。

虫だより



花だより

◆ならやまの越冬昆虫

菊川 年明

真冬になると昆虫はほとんど見かけなくなりますが、いろいろな姿で越冬しています。越冬する姿を分けると、卵、幼虫、蛹、成虫に分けられます。卵で越冬するものが一番多いです。

成虫で越冬する昆虫の居場所は落ち葉の上や中、朽ち木の中、土の中、植物の根元などです。

成虫で越冬する昆虫でよく目に止まるのはチョウです。穏やかな日には飛び出してきて、翅を拡げて日光浴をしています。ならやまでよく見かける元気なチョウはテングチョウ、ルリタテハ、キタテハ、ムラサキシジミなどです。



(ムラサキシジミ)

朽ち木を砕くとオサムシ類、クチキムシ類、キマワリ類(いずれも甲虫)などがよく潜っています。ときにはスズメバチグループのハチがいることもあります。



(オオオサムシ)

スズメバチのグループは大方は11月頃に死に絶えますが、次世代の女王蜂だけは生き残って土中や朽ち木の中などで越冬します。



(オオスズメバチ)

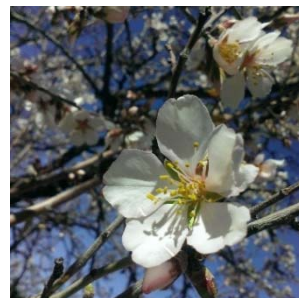
ちなみに、女王蜂は春になると外界に出てきて、独力で巣作り、産卵、育児をします。初夏になって働き蜂が巣立つと、後は働き蜂に助けられて産卵に専念します。

◆春へのいざない「梅」

坪井 都子

新年を迎える門松は松竹梅です。それぞれ新年を祝うにふさわしい意味のある植物です。その中でも

「梅」は愛らしく、春への誘いを感じさせてくれます。ならやまのベースキャンプの梅は蕾が綻び始めています。



◎ウメ(学名: *Prunus mume*)は、バラ科サクラ属の落葉高木。中国原産のウメが日本へ渡来したのは弥生時代、または遣唐使が薬木として紹介したとされています。菅原道真(845-903年)が遠く左遷の大宰府から詠んだ故郷の梅は、どのような梅だったのでしょうか。

“東風吹かばにほひをこせよ梅の花

主なしとて春な忘れそ”

ウメは品種が多く、中国からの渡来種のほか、日本では江戸時代にたくさんの品種の育成・改良が行われ、現在では約300種以上あります。

◎果実を利用する品種は「実梅」として扱われます。未熟な梅は有毒で中毒を起こしますが、未完熟の梅は梅酒にします。完熟の梅は梅干しそして梅酢・梅ジャム・健康食品等々、食用としての用途は広いものです。また「烏梅(うばい)」は健胃整腸等の漢方薬や染料としても重宝されています。

◎さて花と樹木全体は「花梅」として鑑賞の対象にもなり、日本各地で花見や梅まつりが開かれます。花見というのは、元々「梅」の花見であつたと伝えられています。因みに奈良県に三大梅林がありますが、私の近くには奈良公園の片岡梅林もあります。私の花見は毎年、片岡梅林の観梅から始まります。そして春の訪れをいち早く感じる事ができています。

エコグループ

◆ファームに寄せる私の価値観



池山 怜子

秋冬野菜の収穫が終わって、ファームは春夏野菜の準備に入るまで一息つける期間になります。この時期は土壌にも休息と栄養を与え、地力の回復を図る時でもあります。ファームのメンバーは栽培することに興味関心を持ち、健康増進を図りながら喜びを分かち合っているのです。例え作物が不作であっても、B 物が多くなっても、さほど悲壮感はなく気楽と言えば気楽な仲間です。

6,70年くらい前の畑は、例えそれが猫の額ほどの土地であれ、不便な耕地であっても、食料確保のために、あるいは生活の足しにと、お年寄りも懸命に耕していたように思います。趣味や健康のためと言う人はいなかったように思います。かつては、このファームの田畑もそんな人達が耕していた時代があったのでしょう。今私たちが趣味興味や健康のためと楽しく耕作していることは、有り難くもあり、申し訳ない気もします。

私事ですが、遠く離れた所にある親たちの耕していた畑を今もリクレーションを兼ねて耕作しています。他人に差し上げても良いような畑地ですが、自分を育ててくれた一部だと思うと、動ける間は維持しようと。だから生活の足しや必要な物を作るつもりはなく、珍しい物や面白い物を作ってみようと、まさに遊び半分です。例えば丹波黒、紫ウコン、ヤーコン、パプリカ、長芋、青パパイヤ、生姜等々。去年はパプリカ、生姜、長芋、青パパイヤが豊作で、中でも赤や黄色のパプリカは市販の物と遜色のない逸品物が揃いました。

ならやまファームは、多くのメンバーが集まり、今の時代に合った健康増進、興味関心から入って、ちょっぴり何かの役に立つ農事が出来る理想の所だと思います。多くの人が集れば、その数だけ健康家族が増え、「心弾むファーム」になるのではないかと思います。

里山グループ

◆里山林整備の経緯を振り返り…

森 英雄

今年はコロナ禍により新春講演会が中止となったが、去年は神戸大学黒田先生を迎えて「新春ならやま研修会」をリモートで開催した。振り返ると、我々は平成22年に先生に講演頂いた「ナラガレ問題と里山林の管理」の考え方が、ならやま里山林管理の基本指針になった。里山基礎整備後にナラガレ（コナラが夏に大量に枯れる流行病）対策の準備、観察、伐採・処分等で里山整備作業は中断。平成28年度には、ナラガレ被害を最小限度に抑えこんだ。以降は見るも無残になった里山の整備（復活）と、里山を継続していくため、エリアを決めた強間伐を順次実施し、コナラの発芽、萌芽を促進するとともに植樹を進める。また林産物の利用などを行っていくことになった。

「新春ならやま研修会」はこの様な経緯の後に昨年開かれた。前半は「ならやま里山林整備の経緯と今後」と題して里山グループから発表（スライド、講演要旨は事前に先生に送付済み）。この発表直後に、先生から特に気の付いた問題点などの指摘があった。休憩後に先生より「都市近郊の里山資源の活用」と題して講演があり、最後に質疑応答となった。先生は当会のやり方等を十分ご存知で、理解者であるので、当方の悩んでいること等を的確に指摘いただいたと思う。

- ・里山林は針葉樹人工林とは違う（農用林）
- ・部分皆伐は萌芽更新が原則で、植林が必要な伐採後2年程度必要
- ・攪乱を防ぐために植樹木は樹木も注意が必要
- ・薪等の活用等々。

これらを踏まえて里山Gは今、新しい里山林のあり方を模索しながら作業する面白い時期であると思う。（コロナがなくなれば、小生ももっと参加できるのだがなあ…残念です）。

初出式と七草粥

富江 文雄

「初出式」

令和4年の初出は1月6日、コロナ感染症がひと息ついたところだが、新しい変異株（オミクロン株）の登場でまだまだ予断を許さない。例年ならばあるべき、「餅つき」「お祝いの振る舞い酒」共に無かったが、お昼に七草粥の提供があった。

定刻には雪混じりの寒風が吹く中で、70人以上が集まり、千載会長が挨拶に立った。就任して初めての初出式であり、「奈良・人と自然の会」創立20周年を祝うと共に、改めて会のさらなる飛躍と会員の健勝を祈念する発言があった。



「10年継続会員の表彰」

今年はその後直ちに、10年継続会員の表彰と記念植樹があった。今年の10年継続会員は、青木幸子、岡崎節子、田中克彦、富井忠雄、羽尻嵩、村上雄之の6氏で、昨年まで続いた「実りの森」での植樹と異なり、ベースキャンプに近い「山野草跡地」に藤の木を植えることになった。

ノダフジの一種である「九尺フジ」で成長が早く、数年後には立派な藤棚が出来、5月に美しい花で目を楽しませてくれ、夏には涼しげな緑陰を作ってくれる事だろう。



6氏を代表して羽尻さんがこの10年間の歩みを回顧して、会に入った頃には会員数が40有余人であったのが4倍以上に増え、その活動内容も充実してきているのが頼もしい。ただ一方ではグループ別になり個人の自由な活動が、少なくなっている様に感じられる。これからも健康が許す限り活動を行きたいとの発言があった。



「七草粥の提供」

記念植樹のあと通常の活動に入り、12時には「七草粥」が出来上がった。女性会員がならやまで採取した野草で七草が集まり、おいしい粥を十分に味わうことが出来た。



昼食後も活動을続けて、初日を終えた。

大神神社参拝と三輪山登拝、山麓歴史探訪 富井 忠雄

平等寺を訪ねて～廃仏毀釈による破壊と 再建をご住職から伺う～ 八木 健彦

1月18日(火)歴史同好会主催でこのコロナ禍の中、2年ぶりの登拝です。JR三輪駅9時10分集合、曇りで参加者22名。

大神神社の拝殿で奈良・人と自然の会の行事の安全と会員の健勝を祈願してお祓いを受けました。

次いで、摂社の狭井神社まで皆さんで行きそこで登拝組と山麓組とに分かれ、登拝組は11人で入山料300円/1人と入山許可の「登拝の禪」をいただいて御神体の三輪山(467m)へ向かいました。

最初にまず、各自御幣を賽銭箱の横に入れてお祓いをして出発しました。丸太橋を渡り、三光の滝まではわりと楽でした。少し休憩し、そこからは急な坂道を登り、途中では草木など観察しながら中津磐座で小休憩して、再び急坂を登り、烏山椒の林を抜けると高宮神社がありお祓いをして、山頂の奥津磐座(大物主神)に着きました。11名揃ってお祓いをしていたら雪がちらつき、私たちが清めて下さったようで、またパワーをもらって下山しました。

11人全員の禪を集め狭井神社社務所へお返ししました。行程は往復約4km、2時間30分の登拝でした。

その後1時頃、昼食を二の鳥居横の福神堂で三輪そうめん、おでん、柿の葉寿司などとお神酒を少しいただいて身体が温まって帰路に着きました。皆さんお疲れさまでした！！



山麓組10名は狭井神社近くの大美和の杜展望台で大和三山を目の前に一望したあと平等寺へ。丸子孝法住職より感銘深い講話を聴く。

平等寺は聖徳太子開基開山と伝えられ、大神神社の神宮寺の大寺院で、三輪流神道を広める役割もしていたが、明治の神仏分離一廃仏毀釈によって徹底的に破壊された。その際、村人たちが土蔵をつくりそこにかんりの数の仏像を隠し保存したという話にホッとする。昭和40年に弟子入りされたご住職は、6年後の師匠の遷化に際しての約束を果たすべく、16年間本堂復活勧進托鉢をされた。ガリ版刷りのチラシを手にして1軒ごと門付けしてまわる托鉢だったという。その時出会った人たちとの心の交流の話しに感動し、テレビで全国放映され、大反響が湧き起こったという話には心が躍る。山門は自分で鉋掛けもして建て、本堂の設計図も自分で描いたという超人的な活動ぶりを聴くと、このお体でどこにそんな力が…と驚かされる。ともかくその不屈の情熱とエネルギーには驚嘆するばかりであった。

そして多武峰の妙楽寺。鎌足の子息の定慧一不比等によって建立され、神仏習合の一大聖地となっていたが、やはり明治の廃仏毀釈によって徹底的に破壊された。ご住職は50年前に平等寺とともに妙楽寺の再建を発願され、それは遂に昨春に本堂落慶をみたのであった。この本堂の天井絵図144枚と襖絵(旧多武峰妙楽寺全景図)はご住職がその全てを描かれたという。

本当に感銘深いお話しであった。参加者の気持ちを寸志ご喜捨としてお渡しすると、ご住職は妙楽寺落慶の記念誌を全員に配られた。いいお話しを聴いた後、素麺屋でいい酒と温かいにゅう麺をいただいていい気持になって散会した。



私のふるさと

杉本 登

私のふるさは香川県善通寺市です。香川県の丁度まん中に位置しています。

ふるさと自慢は空海の生誕地であること、戦前十一師団（現在は自衛隊の駐屯地）があったことと、うどんがおいしいことでしょうか。

空海は私が説明するまでもなく日本人なら誰でも知っている超有名人ですね。水不足に困っている讃岐の人々のために、満濃池を開削しました。用水は満濃水として地元の人々には今でも感謝されています。

空海は地元では「お大師さん」と呼ばれており今も四国 88 カ所をお参りする人が行きます。第75番札所善通寺は真言宗善通寺派の大本山で88 カ所の中では1番大きく立派なお寺です。四国 88 カ所はお遍路ブームで全国からお遍路に来られます。

阿波の国は発心の道場、土佐の国は修行の道場、伊予の国は菩提の道場、讃岐の国は涅槃の道場とはよく名付けたものです。讃岐路に入るとお寺の間隔も短く、けわしい山道も少なくルンルン気分で歩けます。土佐の厳しい路とは地獄と天国ほど違います。また、讃岐人は穏やかで優しい人が多い様に感じます。歩いてお遍路を2回程しましたが、お接待（お遍路さんにお菓子やみかん、お餅、100円～200円のお金をあげる）をよく受けました。これは他の県でもありました。四国の人はお遍路さんに優しいなあと心がほっこりした思い出があります。

十一師団は日露戦争時の乃木大将に由来します。日露開戦時に乃木大将（地元では乃木さんと呼んでいます）は十一師団長で市内の金蔵寺という寺に下宿していました。毎日、馬に乗

って30分程の師団に通勤していました。

日露開戦時に乃木さんは四国の兵を率いて第3軍を編成し、旅順要塞の攻略を指揮しました。この辺りは司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」に詳しく出ています。小説では203高地を落とすのに膨大な犠牲者を出した、とあまりよく書かれていませんが、地元では乃木さんは大変尊敬されており、毎年、命日の9月13日には市内の護国神社で「乃木祭」が行われています。乃木祭では露店が立ち並び大賑わいで小さい頃の大きな楽しみでした。

うどんは香川県が観光大使として俳優の要潤さんを起用し「うどん県」をアピールしたため全国的に有名になりました。

おいしいうどんを食べに香川にくる人が増

えましたが、地元の人のおうどん好きは度を越えています。朝からごはん代わりにうどんを食べ、昼はうどんをおかずにご飯を食べ、晩もまたうどんを食べる、という生活をしている人も多くいます。

うどん屋さんはいたるところにあります、うどん店が

潰れたという話は聞きません、大抵セルフの店です。いりこだしのだし汁で、ちくわ等のてんぷらを置き食べます。うどん通はかまあげうどんか、生醤油うどんを食べる人が多いです。

私も大好きなうどんですが、最近は偏った食生活で糖尿病になる人、大人ばかりでなく子どもも増えており問題になっております。健康のためにはバランスよく食べないといけませんよね。室生犀星の詩に「故郷は遠きにありて思うもの、そして悲しく歌うもの、よしやうらぶれて異土の乞食となるとても帰るところにあるまじや」というのがあります。しかし私にとって善通寺は亡き父母の思い出や、かまあげうどんのいりこだしの匂いとともに忘れられない懐かしいふるさとです。



病害虫講座 44 ウメの病害虫-I (大勢でお邪魔します!)

木村 裕

ウメの葉や枝、幹にセミのように口ばしを刺し込んで汁を吸っている害虫を紹介します。

【ムギワラギクオマルアブラムシ】

長ったらしい名前でご覧ににくいですが、しかし、この虫の被害症状に関してはウメを栽培している人なら、ああ～あの被害かとすぐに頭に思い浮かぶことでしょう。

春4月、新しい枝が伸び出す頃、開く葉が次から次へとみんな縮れてクシャクシャになる症状ですが、縮れた葉を開いても虫は見つかりません。

この虫は食道楽? で硬くなった葉は見向きもせず、もっぱら先端の開き始めたばかりの葉の裏に集まって汁を吸っています。しかもウメに滞在するのは一時で5月頃には姿を消します。

夏場は付近の草花や野草で静かに暮らし、秋涼しくなってからウメに戻ってきて越冬芽の近くに卵を産みます。これが翌春の発生源になります。

物知りの方がこれは縮葉病だとよく言いますが、それは間違いです。縮葉病も葉は縮れますが、症状はまったく異なっており、通常発生することは少ないです。



【オカボノアカアブラムシ】

このアブラムシもよく発生します。ムギワラギクオマルアブラムシに比べ、発生時期はやや遅く5月頃になります。

長く伸びた新しい枝の周りに白っぽい粉に

包まれた少し赤味のある虫がぎっしりと並んで汁を吸います。そのため、虫のいる枝やその下にある葉にはねばねばして油滴のような物(虫の排せつ物)が付着します。

この虫の発生時期も一時で、6月にはオカボノ野菜類の根っこに引っ越しますが、私はそこでの姿をまだ見たことはありません。

【タマカタカイガラムシ】



枝や幹に虫コブができたように赤褐色の球がたくさん付着します。これはタマカタカイガラムシのメス成虫で、お尻から粘液(排せつ物)をいっぱい放出するので、周りの枝や葉はいつも濡れたようになっています。この球を枝から引き離すと、ポロポロと粉のような物がこぼれ落ちることがありますが、これは卵で1個の球に数百個ほど詰まっています。

また、この球の周りに灰色でヤマアラシのような突起のある気持ちの悪い虫が見つかること



がありますが、これはテントウムシの幼虫です。なのでお茶でも差し上げておもてなししましょう。

詳細については病害虫講座173号(2016年6月号)を参照してください。



おいたわしや

押熊王子(おしくまのみこ)

吉川 利文

私がいま住んでいるところ

は奈良市押熊町。転入したころ、口の悪い友人から「熊が出るような辺ぴなところか」などと冷やかされたりした。しかし、押熊というのは、れっきとした古代王朝とゆかりがある地名だ。地元の郷土史家によると、平城京の西北隅に位置するところから、隈(くま=奥まったところ)に押し込められたような場所という意味でつけられたか、第14代の仲哀天皇の第2皇子の押熊王子(おしくまのみこ)にゆかりの地だったのではないかと推測する。

押熊町の氏神さま、押熊八幡神社の境内の隅に、押熊王子と兄の香坂王子(かごさかのみこ)を祀る小さな祠がある。そこの由緒書きには、この兄弟は仲哀天皇の第1皇子と第2皇子で、仲哀天皇の後妻、神功皇后が新羅征討を終えて帰国、九州福岡で出産した誉田別皇子(ほんだわけのみこと=のちの応神天皇)の異母兄弟になる。神功皇后は都のある大和へ凱旋しようとしたが、2兄弟は、異母弟に皇位を奪われると恐れ、神功皇后母子を迎え討とうとする。

ところが、戦端が開かれる前、2兄弟は戦の吉凶を占って狩りをした。その最中に、こともあろうに香坂王子がイノシシに食い殺される。押熊王子はこれに屈せず、神功皇后母子軍と戦うが、策略に騙されたりして戦況は思わしくなく、今の大阪あたりから宇治のあたりにまで追い詰められる。結果、惨敗して宿将とともに琵琶湖へ入水自殺する——ということが書かれている。この哀れなストーリーは古事記にも日本書紀にも詳しく書かれている。

気の毒な兄弟。かかりつけのドクターからダイエットを兼ねた散歩を勧められた私は、コース半ばでひと休みした時、兄弟を祀る祠で手をあわせ、慰めたものである。「ご無念でしょう」

ところが、数年前、考古学者の故森浩一氏の

「敗者の古代史」という著書の中で、押熊王子の末期について、新説に出くわした。

「押熊王子は、琵琶湖で入水したのではなく、今の福井県、越前の国まで逃げ延び、この地方の人々を悩ませていた山賊を平定したので、人々は神と崇め、劔神社(つるぎじんじゃ)に祭神として祀ったようだ」というのである。



記紀を否定する面白い説である。森説を知った数年後、地元の公民館で郷土史家が森説を支持し、おまけに、「劔神社の神官に今の愛知県、尾張の国へ出て、織田を名乗った人がいる。織田信長の祖先である」というのである。劔神社の所在地は福井県越前町織田である。ということは、織田信長は福井県をルーツとしていたわけだ。ならば、フィギュアスケートの選手織田信成さんも、同様にルーツは福井で、間接的に奈良市押熊町ともゆかりの人になる。押熊さん、織田信長、それに織田信成さんと、回りまわってわが押熊町と縁続きではないか。

よーし、これは現地へ行って確かめなくては。コロナ禍が一段落するのを待ちかねて昨年10月、劔神社を訪ねた。福井県南部を深く分け入った辺地にある、大きく、立派な神社。

神官はきっぱり証言してくれた。祭神は、スサノオノオオカミ、気比(けひ)ノオオカミ、それに押熊王子である、と。さらに、室町時代の神官に織田常昌という人がおり、尾張で勢力を伸ばし、織田家のルーツになったという話が当神社に伝わる、と。ついでに、織田信成選手が「お参りに来られましたよ」とも。

ところで、なんと昨年末の12月14日、劔神社で火災が発生。社務所が全焼した、というニュースが飛び込んできた。ああ、なんということか。押熊王子はおよそ1600年の時空を超えて、いまだに“ご難”に見舞われていらっしゃる。

「おいたわしや」。思わず深いため息が出た。



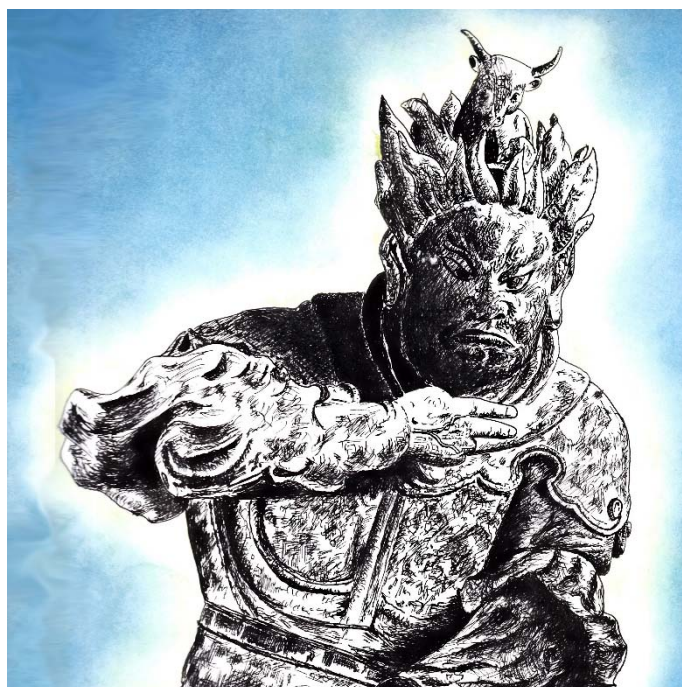
油彩 F10号 若草山 小田 進八郎



陶芸 額皿(織部) 坂東 由紀子



写真 コナラの棲み分け(春日奥山)
千載 輝重



ペン画 招杜羅(しょうとら)大将立像 境 寛

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

行事案内



「シイタケ菌打ちイベント」の ご案内

尾崎 信次

昨年は新型コロナのせいで中止となり、今年もオミクロン株の感染急増に予断を許さない状況ですが、「シイタケ菌打ちイベント」を行う予定です。公開イベントとして広く子供たちの参加を募り、自然環境教育の一環として、下記の要領にて実施します。

記

1. 日 時：2月19日(土) 9:00~13:00

雨天(前日19時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の午前中の降水率が50%以上)の場合は、2月26日(土)に延期

2. 場 所：ならやまベースキャンプ及び里山林

3. 内 容：コロナ対策の為、昼食時間を設けず、午前中のみとし、シイタケ菌植え込み、コナラの植樹、里山遊びを、密を避け3班に分かれ1時間ごとのローテーションを組み実施します。

4. 参加者：小学生児童とそのご家族計60名

5. 参加費：無料

6. 持物：マスク、タオル、軍手、あればヘルメット、服装は長袖、長ズボン、防寒着、歩きやすい靴でご参加ください。

7. 受付窓口：辻本 信一

参加された子供たちとそのご家族の皆さまには、シイタケの菌打ち作業や植樹を通じて、自然の豊かさ、自然の大切さを学んでいただきます。冬の寒さに負けず頑張る子供たちをみんなで応援しましょう。スタッフとして、40名ほどの会員の皆さまのご参加をお願いいたします。奮ってご参加ください。



自然教室チームだより 3月行事案内

早春のお楽しみ自然観察会(大淵池公園)

辻本 信一

今年の「お楽しみ」自然観察会は、コロナ騒動直前の令和2年3月2日(月)に実施し、評判の良かった近鉄奈良線学園前駅から徒歩約20分の緑豊かな大淵池公園に決定しました。

当公園は、奈良市西部の住宅地に位置し、大淵池を中心に池地区、西地区、東地区の大きく3つのエリアからなる県民の憩いの場です。

今回案内をお願いするのは、勿論、皆さまご存じ「大阪自然史博物館友の会」副会長田代貢先生です。豊かな自然の中で、植物のみならずこの時期ならではの水鳥の観察も期待でき、明けてびっくりのお話満載の自然観察会になること請け合いです。皆さまも、奮ってご参加ください。

記

1. 日 時：3月7日(月)

午前9時~正午(予定)

2. 集 合：大淵池公園(西地区)駐車場

・近鉄学園前より真っすぐ北に徒歩20分

(ならコープスギ薬局の交差点を左折)

・奈良交通(バス)「大淵橋」下車

学園前駅北改札出て直進5・6番乗り場

3. 持ち物：マスク着用、(あれば)ルーペをご持参ください。必要に応じ、各自防寒対策もお願いします。

4. 観察ルート：

公園内の見どころを気の向くままに巡ります。それゆえ、観察ルートは当日のお楽しみとさせていただきます。

5. 雨天実施の有無：(会報誌記載)申し合わせ通り。但し、雨天時は翌週の3月14日(月)に予備日を1度だけ設けます。

6. 担 当：自然教室チーム 富江

仲間入りしました

塩井 皓太

はじめまして。奈良大学文学部地理学科所属の塩井です。昨今の環境問題への関心の高まりを受け、森林の重要性が再認識される中、このような活動をすることで自然あふれる地球を未来の子どもたちにつないでいくことができると思い加入を決断しました。

現在大学では農村地理学を専攻しています。最近は環境地理学や環境保全について学んでおり、森林の果たす役割、人類と森林がこれまでどのように付き合ってきたか、法律の諸問題などを勉強して多くの気づきを得ました。

こちらで学ばせてもらったことは大学での勉強にも還元していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。

森 和子

初めまして。シニア自然大学校の「人と自然の講座」の終学を控え、次回の講座を考えていたところ、講座で一緒にの豊田さんより「ならやま」での楽しい作業の様子を伺い、見学を紹介いただき伺いました。雑木林、畑、田んぼ、ビオトープ、子供の頃の郷愁を感じました。

自然を愛する皆さまのお気持ちを感じました。毎週自然に会えるのが楽しみです。どうぞよろしくお願いします。



ひとやすみ

子供の頃、家に人が来るのが嫌だった。

お正月、新年度、お盆など季節の変わるごとに沢山の人が来ていた。

父の会社の人、親戚の叔父・叔母、両親の友人、挙句は近所の人たちも来た。

その度に、「ご挨拶」「お茶を入れる」「お料理を運ぶ」「後片付け」をさせられる。少し大きくなると「ピアノを弾け」「歌を歌え」、やりたくないけれど断れなかった。

今、家族や親戚は少なくなり、多くの人が家に来ることはなくなった。

去年の暮お正月料理を用意しながら、すごく懐かしく、嫌だったのにそれも私の人生の一部だったんだと思った。コロナで終わった去年、皆さんの家でも色々な思いが巡ったかもしれない。



3月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動(木)

3日 協働活動日

24日 新入会員歓迎会 予備日 3/31

*自然教室

7日(火) 早春のお楽しみ観察会

会員動向(敬称略)

<入会者>

12/23 森 和子

2022年1月度 幹事会報告

日時：12月21日(火) 14:00～16:30

I 全体報告事項

緑綬褒章伝達式の報告

II 会計、総務部より

- ・会員動向：1名入会、2名退会で158名
- ・会計報告：収入、支出それぞれ報告あり

III 活動・行事関係

- ・1/18 三輪山登拝 歴史同好会担当
- ・3/24 新入会員歓迎会 開催予定

*ならやまプロジェクト関係

- ・初出式 七草粥のみ準備 記念植樹 10時～
- ・1/6～ 通常活動とし午後3時までとする
- ・バークチップと牛糞堆肥 窓口は千載会長
- ・GGイベントは年4回開催を計画する
- 2月の椎茸イベントは午前中とする
- ・備品管理は6カ月に一度詳しい報告をする

*新春講演会&懇親会

- ・1/29(土) 徳地先生による里山講演予定

IV 企画、助成金事業案件

- ・図録集編集委員会 1/23(木) コラム等
- ・記念誌編集 3月末に向けて編集準備中
- ・各種助成金、交付金事業については順調に進捗している

V 喫緊、提案事項

- ・幹事改選 幹事候補推薦願いを12月会報誌に同封、推薦期限1/31。2月調整、3月末に候補者を決定
- ・現幹事は10名以上推薦を、内3名以上は女性とする

VI 広報、関係

- ・「里山の今」各Gの執筆予定者を編集委員長まで連絡すること。

VII 報告、連絡事項、その他

- ・2/8 月例研修会 予備日を2/15とする
- ・3/7 自然教室
- ・芋煮会報告・北川先生研修会&懇親会報告
- 次回幹事会 1月25日(火) 10:00～



<“もう”と“まだ”のはざまで>

「あんたはまだ若いから」何気ない会話の中で大先輩からかけていただいたこの一言、心がふんわり

と温くなり「ありがとうございます」とお答えするのが精一杯だったけれど、この言葉がそれ以来、ポッポと私を温め続けてくれている。

うっかりとダブルブッキングしてしまって大謝り！

目の前にいる人の名前がどうしても思い出せない！

膝も痛いし肩も痛い！

もう歳やなあって自信喪失気味になっていた。正にそんな時、新しい事にチャレンジするチャンス頂き、“まだ若い”の言葉に魔法をかけられ、何の躊躇もなく無謀にも飛び込んでしまった私！ でもその事が次々と新しいことに挑戦させてくれ、新しく教室に通ったり、いままで読まなかったジャンルの本を読んだり、歳時記を片手に指を折ったりと、楽しいことに出わせてくれている。

三年前に環境が大きく変わって、何となく“もう”にとらわれてたのが“まだ”って考えられることによって見えてきた新しい世界！年齢を重ねる事によりどうしても抗えない事もあるけれど、

“もう” 歳やし！ “まだ” 若い！

“もう” アカン！ “まだ” できる！

“もう”と、“まだ”の狭間で揺れ動きながら、“これからの人生で今日が一番若い”って呪文を唱えながら日々を過ごしていきたいと考えている。

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

表紙写真：豊作満載

9月に「千都(総太り大根)」を種まきしました。順調に生育し、12月より収穫しています。